

坂の上通信

平成三十年七月二十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

夏休み 練習に意欲

合宿を計画している部も

夏休みが始まる。勉学に勤しむ人、旅行に行く人など、様々な過ごし方をするだろう。今回、新聞文化部では夏休み中の部活について、いくつかの運動部

取材した。ラグビー部は、大会は無いものの校内合宿をした後に、長野県でも合宿を行うそうだ。目標は「全国大会予選決勝進出」だそうだ。



自分たちでメニューを考え、練習に励む水泳部

男子テニス部は、市立総体が7月の25、26日に行われ、8月末には地区大会が控えている。合宿は行わないが、強化練習をする予定だという。目標は「インターハイを目指す」とのことだ。

水泳部は8月1日に市立総体、8月26、27日に地区大会が予定されている。選手が交代で、日替わりの練習メニューを決めていくスタイルで、部員全員で楽しく活動している。目標は「全国大会出場」だそうだ。水泳部は現在、部長がマネージャーを兼任しており、マネージャーも募集している。

各部とも学校の代表としての自覚を持ち、競技もマナーも恥じることをない態度で臨んでもらいたい。また、この夏は例年以上に暑さが厳しい。熱中症にも十分な注意が必要だ。

学校の「顔」にインタビュ―



今回は、国語科の宇佐美先生にインタビュ―を行った。

「国語の先生になろうと思ったのはなぜですか。」

国語が得意だったこともありますが、一番の理由は古典の授業が良かったからです。古典の魅力はどこにあるのですか。

文章を通じて、人間というものの面白さがあふれているところだと思います。美高生に一言お願いします。



先生の夏休み

以前にも増して気温が上昇し、予定がない日には、クーラーの効いた部屋で1日を過ごす人も多いだろう。

今回はクラス担任の先生方に、夏休みの楽しみや予定を伺った。

左の表がそのまとめである。全体として、帰省や、あったとしても日帰り程度の簡単なイベントが多く、日数を多く必要とする予定をもつ先生は少ないようだ。

補習やゼミ、また個別指導もあるので、予定を生徒に合わせておられる先生も多く、まとまった休みがとりにくい事情もある。3年生は、自分の進路実現に向けて努力す

机の上の美術館

今回は、社会科の木戸先生の机の上を取材した。以下、木戸先生からのコメント。

私の「机の上の美術館」は、席に着いてから見える景色だ。弁当など毎日持つてこなければならぬのがパズルのようにはめこまれており、机の上とともに、支えてくださる先生への感謝の気持ちも忘れないでほしい。



木戸先生の机の上

てほしい。落ちそうでもない、まさに芸術的なバランスである。

美高も募金活動

西日本豪雨により、広島県では100名を超える多数の犠牲者が出た。現在も多くの人々が、避難所で生活している。この状況を受けて多くのボランティアが働

美高でも生徒会とあすなろ会が中心となり7月19、23日の3日間募金活動を行った。集まった募金は、広島市などの義援金受付を介し、被災地に届けられる予定だ。

先生	夏休みの予定や、楽しみなこと
1-1 福山先生	お盆に実家に帰ってバーベキューをする。
1-2 佐伯先生	カンボジアに行く。
1-3 平尾先生	特に予定はない。部活の指導が中心の夏。
1-4 長船先生	「未来のミライ」を観に行きたい。
1-5 永福先生	仕事が多いが、映画館を回りたい。
1-6 坂田先生	特に予定はない。懇談がある。
2-1 山口先生	弓道部員が上手くなること。
2-2 沖本先生	子どもとトミカ博に行くこと。
2-3 土岸先生	家族とゆっくりすること。
2-4 墨田先生	宇品の花火大会に行くこと。
2-5 荻野先生	家族旅行に出かけること。
2-6 今田先生	久々に息子に会えること。
3-1 中西先生	奥さんの実家に帰省すること。新車の下見。
3-2 首藤先生	実家に帰って、湯布院の温泉につかること。
3-3 伊東先生	入試問題を解くこと。
3-4 横山先生	夫と演劇を観に行くこと。
3-5 日浦先生	家族みんながそろること。
3-6 林先生	3年生の受験の事務作業に追われています。

美・鈴・鈴・鈴

明日26日から夏休みが始まる。受験を控えた3年生と違って、下級生は友達や家族と出かける人も多いだろう。出かける際に気をつけたいのが、ニュースでもさかんに扱われている「熱中症」だ。▼熱中症は、高温の中で活動したために起こる、身体の異常の総称とされている。初期症状として、めまいや立ちくらみ、熱失神とも呼ばれる一時的な失神があげられる。▼熱中症予防にはなんと言っても「こまめな水分補給」が大切だ。だが同時に「ほどよい塩分補給」を忘れてはいけない。塩分を取らず、水分補給だけをしていると熱中症の症状が出たり、悪化する場合もあるそう。▼夏休みになると、プールや海に行く人もいられる。水の中だから熱中症にならないとは限らない。プールや海では、水分や塩分補給を忘れがちになってしまふからだ。「自分だけは大丈夫」と思わず、十分な対策をとって暑い夏をのりきろう。

編集後記

夏休み特集号として記事をまとめた。次回は体育祭を取り上げる予定だ。